

# グリーンコープの組合員自ら、自然エネルギーによる 発電所づくりを始めました!!

未来を創る子どもたちに自信を持って伝えよう!  
「お母さんは、自分たちの手で自然に寄り添った  
発電所をつくったんだよ」って。



▲完成した「神在太陽光発電所」



「3.11」後、グリーンコープは「後悔しても間に合わないことですが、放射能に被爆することを覚悟しなければ食べ物に口を付けない事態が私たちの目の前に迫ります。この事態を組合員みんなで共有し、その上で渾身の知恵を絞りあって生命(いのち)を守るために助け合っていきましょう」とみんなで決議しました。

あの日のことを忘れない。忘れてはいけない。

そう…、「3.11」東日本大震災と東京電力福島第一原発事故のこと。中でも、2年以上たった今なお、時が止まったかのような福島県周辺の地域。地震と津波と、そしてあってはならない原発事故の惨禍。放射能の恐怖に怯える日々が続いています。

原子力という技術は、人間が生み出したものだけれど、それによって生み出された放射能を今の人間の力ではどうすることもできず、放射能に汚染された水が海に流出するのを防ぐために汲み上げて別の場所に移すことだけ。そんな不毛な作業が続いている様子がニュースから伝わってきます。

もう、電気を原発に任せていてはいけない。だからグリーンコープは、組合員の思いと力を結集して、市民発電所をつくろうと決めたのです。安全な食べものを自分たちの手で作り出してきたように、未来を生きる子どもたちのために大きな一歩を踏み出しました。

## 脱原発をめざしてきたグリーンコープの道のり

### グリーンコープが 発電所をつくろうと思った出発点

それは、1986年4月26日旧ソ連チェルノブイリ原発が爆発したことをきっかけに始まっていたと言えます。今から27年前、世界中が放射能に汚染され、放射能に汚染された食べものを食べるこの恐怖が市民の生活に襲いかかりました。

この衝撃的な事故によって、「原発は安全だ。事故など起こすはずはない」という原発神話に疑いを持ち、**原発の危険性**を直視するようになりました。



### 生命(いのち)と原発は 共存できない

強い思いと意志をもって、グリーンコープは**脱原発社会**への道を歩み始めたのです。

そしてグリーンコープは、**原発の持つ危険性**や放射能が人間の身体に及ぼす影響などについて、たくさんの学習を積み重ねてきました。



### 1995年 「グリーンコープ脱原発政策」策定

原発のない社会をめざして、2年かけて組合員の手で今後の**指針となる政策**を作り上げました。この政策はグリーンコープの脱原発社会へといざなうパイプライン的存在としてグリーンコープの中に引き継がれていきました。

そんな中、2011年3月11日東京電力福島第一原発事故が起こったのです。グリーンコープは脱原発社会実現へ向けて大きく一歩を踏み出すことにしました。



### 電気を、国や電力会社に 頼ってきたことを反省しよう!

安心して食べられる食べものを自分たちの手で作ってきたように、自分たちの使う電気だって、原子力というとても危険で人間の手に負えない技術ではなく、地球の存在とともにそこにある**自然のエネルギー**を使ってつくる、それこそ**グリーンコープ**だからできることなんです。





私たちの  
発電所  
づくり、

# 「グリーンコープ・グリーン電力出資金」への賛同

組合員の力を  
結集させましょう!

原発の電気を使わない、自然エネルギーによる電気をつくり出すために…。

電気は私たちの生活に欠かせないエネルギーです。その電気をこれまでのような一極集中の原子力発電所ではなく、自然エネルギーによる地産地消的な市民発電所をめざしたい。「私たちの発電所」と呼べるようなものを各府県(地域)につくりたいと考えています。

そのエネルギー源として、私たちが本当に自然だと思える「風力」「太陽光」を選択しました。

そして、グリーンコープの第一号市民発電所が福岡県糸島市神在に完成しました。発電量は1.057M<sup>メガ</sup>、9月1日から九州電力への売電を開始。生協による西日本初の市民発電所と自負できるものになりました。

さらに、神在太陽光発電所に続く発電所づくりの検討が、佐賀、宮崎、鹿児島、長崎、熊本、大分で始まっています。

「不必要な電気はできるだけ使わない」「私たち一人ひとりが節電やエコライフを心がける」ということはもちろん。その上で、「生活に必要な電気を自分たちでつくろう!」「そのために組合員自ら出資しよう」と呼びかけることにしました。

それが「グリーンコープ・グリーン電力出資金」の取り組みです。組合員の皆さん、この取り組みを広げ、出資を呼びかけましょう!!

## 「グリーンコープ・グリーン電力出資金」とは。

グリーンコープは、原発ではない、自然エネルギーによる発電所を自分たちでつくっていくための大きな一歩を踏み出しました。その発電所を「組合員自らが出資して」「自分たちの発電所」として所有していくことにしました。これからそのグリーン市民発電所づくりに力強く取り組んでいきます。

具体的な方針として、今後10年でグリーンコープエリア内に10カ所の発電所建設を進めていきます。第1号の神在太陽光発電所は様々な制約がある中で最終約1M<sup>メガ</sup>の発電量になりましたが、本来の目標はできれば1カ所2M<sup>メガ</sup>の発電所をめざとしています。

2M<sup>メガ</sup>の発電所建設に約6億円がかかります。その1/3を組合員の出資で賄えないかと考えています。拠出いただいた出資金は、出資後10年間グリーンコープに預けていただき10年後にお返しすることになっています。

■ 出資方法 … 組合員が出資計画を設定します。

①一口40万円

②一口1万円とし、1万円単位で出資総額を組合員自身で設定します。

■ 支払い … 「一括」もしくは「分割」で行います。

カタログGREEN29号と一緒に配布される出資金呼びかけチラシ(「グリーンコープ・グリーン電力出資金」申込書)をご覧ください。

えっ、  
40万円!!  
高いなあ。  
どうして出資金が  
そんな金額なの?

## 出資金40万円には根拠があるんですよ!!

…出資は「1万円」からできます…

2M<sup>メガ</sup>の発電所を1基つくるには約6億円の建設費用が必要。グリーンコープはその1/3(2億円)を組合員に出資金を呼びかけて集めたいと考えているの。その2億円を

2M<sup>メガ</sup>の発電所の発電量で賄える世帯数で割ったのが「40万円」なの。



40万円って高額だけど、自分の家の屋根にパネルを設置できなくても、原発を使わない「自然エネルギー」に参加できるよ。それに、1万円から出資できるんだって。



よし、出資しよう!  
子どもたちに「自然エネルギーの安全な電気」を使ってほしいから。

「親から子へのすてきな贈り物」になるわ。



そっか!

自分の家に太陽光パネルをつけるとしたら、少なくとも300万円はかかるらしいから、40万円で「自分たちの発電所」みたいなのができるとしたら、それは魅力ね。



う〜ん、どうしようかな〜。

